

港湾整備事業

<160年の歴史を持つ函館港>

管内の港湾は渡島・檜山地域の物流拠点として重要な役割を担っており、特に函館と青森を結ぶ青函航路は、航路別では全国3位の取扱貨物量があり、北海道と本州間のフェリー・貨物輸送の約3割を占めるなど、北海道産の新鮮な食品等を移出する重要な航路となっています。

令和元年に開港160周年を迎えた重要港湾の函館港は、横浜や長崎と共に我が国初の国際貿易港として、重要な役割を果たしてきました。

1 重要港湾 函館港

重要港湾函館港はクルーズ船の寄港数が増加しており、令和元年度には47隻が入港し4年連続で道内最多の寄港回数を記録しました。現在、観光地に近い若松地区において、既存施設の改良による11万トン級の大型クルーズ船に対応した岸壁整備を行っており、令和2年度には岸壁整備の完成とともに9万トン級までのクルーズ船の寄港を可能とする泊地の浚渫を行う整備を進めて参りました。

令和3年度は、大型クルーズ船入港に必要な泊地浚渫を継続して整備を行うとともに、浚渫で発生した土砂は、老朽化した西防波堤の機能回復に有効活用します。

2 地方港湾

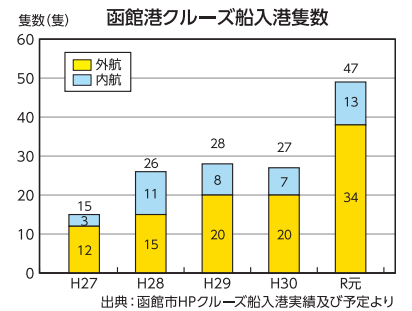
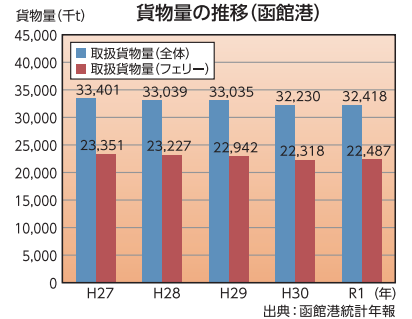
地方港湾奥尻港ほか4港では、国土強靱化の推進とともに、老朽化した施設の機能回復、港内静穏度の確保等、港湾の効率的な利用を図るため、物揚場、防波堤、護岸等の整備を進めます。

港湾整備事業の概要

事業区分	港湾名	地区名	事業の概要
港湾改修事業	重要港湾	函館港	若松地区 水深10m泊地
			本港地区 西防波堤改良
	地方港湾	森港	本港地区 東道路、水深2.5m西物揚場改良
		楳法華港	本港地区 東防波護岸改良
		江差港	本港地区 水深3.5m物揚場、港湾施設用地護岸、水深5m北岸壁改良
		奥尻港	本港地区 北外防波堤、水深3m北物揚場
	瀬棚港	本港地区 東外防波堤	



重要港湾 函館港 若松地区



空港整備事業

<国際観光都市函館の空の玄関口～函館空港【拠点空港(国管理空港)】>

※令和3年4月1日現在

函館空港は函館市内の中心部から東へ約10kmと好立地に位置し、国際線1路線(2社)、国内線6路線(3社)の計7路線を有する道南の空の玄関口となっています。

旅客数は北海道内で新千歳空港に次いで2番目に多い空港で、令和元年の国際線旅客数は、平成24年の約2.5倍に増加しています。なお、令和3年3月1日から北海道エアポート(株)により、空港運営事業(運航情報、保安防災、施設管理、灯火電気など)を開始しています。

浸水対策

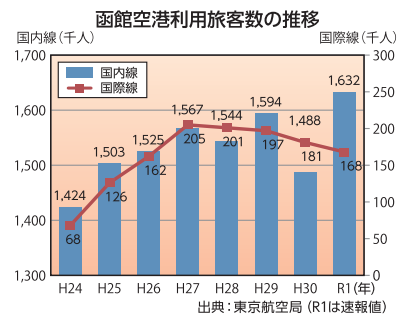
函館空港では、豪雨による空港施設の浸水を防止するため、排水機能強化による浸水対策を行います。

空港整備事業の概要

空港種別	空港名	事業の概要
国管理空港	函館空港	浸水対策



国管理空港 函館空港



北海道総合開発計画のもと、川の自然環境や景観、水辺の活動、サイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携して、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用を促進し、北海道らしい地域づくり・観光振興に貢献する「かわたび北海道」プロジェクトを推進しています。

後志利別川では美利河ダムをはじめとする「かわ」の魅力を発信していきます。

シーニックバイウェイ北海道

ドライブ観光を推進する「シーニックバイウェイ北海道」では、地域が主体となり、美しい景観づくり、活力ある地域づくり及び魅力ある道路景観づくりを進めています。管内では「函館・大沼・噴火湾ルート」と「どうなん・追分シーニックバイウェイルート」の2つが指定ルートとなっており、地域の魅力を高める活動が行われています。

函館・大沼・噴火湾ルート



どうなん・追分シーニックバイウェイルート



木古内町サラクキ岬 チューリップフェア



五稜郭公園 シーニックdeナイト



Scenic Byway HOKKAIDO